



杖桑初集

伊地知文庫
文庫20
360
12



扶桑拾葉集卷第十

目錄

和歌色葉集序

釋顯昭

茶求和歌序

源光行

百詠和歌序

同

俊成九十賀記

源家長

愚管抄序

釋慈圓

聖德太子大明神之事百首和歌序

同

奉納聖靈院和歌序

老若歌合序

早率露膳百首跋

中納言定家公之御歌

其業和雜集序

百首和歌跋

古河公之天皇の御歌

檀中納言定家公之御歌

及心集序

同

同

同

同

同

同

藤原家隆

同

鴨長明

瑩玉集序

方丈記

同

同

扶桑拾葉集卷第十



參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光國編集
和歌色葉集序

釋題昭

北山隱士玄洛の使女・青月朔朝・齋月の結縁善提
壽徳ゆきんとて・中村院よ落てはれい歩と置て黄
賊種とよみ・顔と傾く上下肩ととて・門和馬
車い先ぬ・堂内の男女一ととるも・局のしらべ
まり柱のとていははまりて女をい人か並居ては
雅法す・中よ・高山おと眉空く入道の・取替け
まねも・増濱波は面もゆきも・志着のいは

于時元久の年、神皇正統記が女乃出にあらはれし事
後成九十賀記

源家長

源氏の道もあつたにきく人いふ事。よき事なりて
身もあやまらぬ事いふ事。よき事なりて。佛世十世
女道とていふ事。女とていふ事。よき事なりて。
和歌のうらむ事いふ事。女に可路の心とていふ
つねに。或は清い事いふ事。よき事なりて。或は
この道とていふ事。或は此の道とていふ事。よき事
折也。この道とていふ事。世の事。此の道とていふ事。
中時の事。この道とていふ事。父の入道の境。きき事なりて。

源家長

とり原風子の家の清也

この道とていふ事。父の事。此の道とていふ事。
中頃の事。この道とていふ事。父の事。此の道とていふ事。
源氏の道もあつたにきく人いふ事。よき事なりて。
身もあやまらぬ事いふ事。よき事なりて。佛世十世
女道とていふ事。女とていふ事。よき事なりて。
和歌のうらむ事いふ事。女に可路の心とていふ
つねに。或は清い事いふ事。よき事なりて。或は
この道とていふ事。或は此の道とていふ事。よき事
折也。この道とていふ事。世の事。此の道とていふ事。
中時の事。この道とていふ事。父の入道の境。きき事なりて。

小藤原ららぬ父の事

源氏の道もあつたにきく人いふ事。よき事なりて。
身もあやまらぬ事いふ事。よき事なりて。佛世十世
女道とていふ事。女とていふ事。よき事なりて。
和歌のうらむ事いふ事。女に可路の心とていふ
つねに。或は清い事いふ事。よき事なりて。或は
この道とていふ事。或は此の道とていふ事。よき事
折也。この道とていふ事。世の事。此の道とていふ事。
中時の事。この道とていふ事。父の入道の境。きき事なりて。

下を好む 去日れ 秋の暮のよ
花 有 家 羽 良

きくまきく 梢ありし山らら
や花の 雪の けしき

夏帖

郭云

前大納言忠良

はくきく けしき 一都入り 夜更
かきかき けしき 去のよめ

五月雨

雅經

かめ乃の 遊り 去るかあ代の 敷

いしきよ けしき けしき けしき

納涼

女房清涼

けしき けしき けしき けしき

秋帖

秋野

女房清涼

月志 けしき けしき けしき

月

御製

秋の月 けしき けしき けしき

紅葉

前大僧の意圖

かろははるんれ又とけりあう
木の葉まうけり初時ゆめ

冬帖

千鳥

女房丹後

きつめを我といふれ友も鳥
河一舟の里うねまのうら花

氷

後成口女

秋と雪をわらじし氷のうらな
光よなうそり夜の月

雪

定家朝臣

花山のりくともうぬ。雪のらふ

うらなうらなうらなうらな

母題二首をうらなうらなうらな

のりて。一首はうらなうらなうらな

かろははるんれ又とけりあう

このと紙の按政殿うらなうらな

いへはるんれ又とけりあう

よういもて入道のうらなうらな

太政大臣うらなうらなうらな

皆由衣殿上人と東常入道ゆめ

是家の朝臣うらなうらなうらな

筆葉・是はこれ舟のしらももりさるる人なり
沙花さうくく和歌不存

新製 信玄御院

とせせのりらうはく枝のしらわきに
うえしんん中老の坂の那

糸織左大臣 資實 存者

きよよらひと花さ松の根は又
君もあ年れ志さくあまの末

釋河

とせせのさじゆくもあまのん
らほ世物くさ君の御代あ

美代のりもくくあまのり
あぬらもくくあまの那
好くもあめいんあまの
らくもあ松の根はくく

梅政左大臣

とせせのさじゆくもあまのん
きよのらもくくあまの那

太政大臣

志さのり代もくくあまのん
いしんの地もくくあまの那

大納言道実

うらにねさしちやのふりかへて
あせせの友をりてしれし

権大納言隆房

九十とていと君身りしりし
従妻秋子とみ草のしりね

権中納言重宗

君もえらよの志すの九十
うらにねさしちやのふりかへて

権中納言公經

ゆりしをしれかき露の敷め
うらにねさしちやのふりかへて

権中納言範光

ゆりしをしれかき露の敷め
うらにねさしちやのふりかへて

右中將通光

ゆりしをしれかき露の敷め
うらにねさしちやのふりかへて

右議通具

ゆりしをしれかき露の敷め
うらにねさしちやのふりかへて

正三位通家

和歌の浦より年あかきかき

少成せうねいさむら〜のいふ

正三位成茂

九十のうとかな〜のいふ

君ハ八代海島ハのいふ

有嘉朝臣

老ら〜のいふ〜と照さぬ

〜とやハ山陰〜の月新

定嘉朝臣

君ハき〜十〜を信成とせり

九〜のいふ〜のいふ

経通朝臣

物ハいふ。松〜のいふ。常磐山

ら〜のいふ。君ハいふ

於房朝臣

き〜代ハ松のら〜を〜のいふ

〜のいふ。〜のいふ

雅經

君ハいふ〜のいふ。老の辰

行申〜のいふ。〜のいふ

具親

き〜のいふ。〜のいふ。〜のいふ

旭のいふ。〜のいふ。〜のいふ

家長

濱子鳥のあはれをいそいでぬま
いそいでぬまをいそいでぬま

鴨長門

久々の雲がらゆきゆきゆき
花ふのりもきききききき

夏原秀雄

心ききききききききききき
うらやまのうらやまのうらやま
車くきききききききききき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

伊使秀雄也・山道

このはなをいそいでぬま
やとぬまのうらやまのうらやま
若代が苔のうらやまのうらやま
いそいでぬまのうらやまのうらやま

五——廿——廿——廿——雅經

八百美ははなをいそいでぬま
あはれははなをいそいでぬま
いそいでぬまのうらやまのうらやま
いそいでぬまのうらやまのうらやま

五——廿——廿——廿——

ゆりもはるあり。きれい遠所讀所中老よのりて仔
のし古今の序は昔さかかしてはる。秋の夕立田の川は
なほも紅葉のふもものさしめやめしにとんく。去の
朝も路の山乃橋は人丸らるる雲うをぬんはほ
きんは。朗誦よおのりせは。二三反計しとて
彦とりり。先くゆに事よして侍りて。このと葉は
朗誦よす。音曲めいつははと。このあつては
〜と思〜。是ははるしとめりしからた〜ははる。め
〜今しあはれえぬん人。此とく其音曲めいつは
は〜も〜ぬぬ〜。か〜ははは。去の〜は
〜はる〜。新古今乃人なは〜は〜

唐風し。末の世女子らめ侍りて

早率露膝百首跋

同

都遠〜ぬ山寺よおまかた児有り。学問れも
〜は〜。おまかたの娘はつき〜は〜。僕余か
〜は〜。女は〜。書は〜。わらに増進あり
ま〜。あま〜。まの世乃奇〜。ゆらひの百首
も〜。あ〜。妹のあまのせま〜。増
もら来ら女らんや〜。と〜。世書す。物
は〜。い〜。ま〜。は〜。是で増
院の百首と〜。は〜。は〜。は〜。

湯おこしは... 日... 中...
人... 母... 娘...
... 國... 別...
... 知... 又...
... 二... 年... 酒...

... 或... 春... 夏... 秋...
... 五... 穀...
... 交... 友...
... 或... 地...
... 田...
... 金... 銀...
... 會... 堂...

いづれ女をよきと見たり。若くもて氷とあり。林
林軒よりをけり。凡本は即ち。かた若
と和山とよ。正木のかけり。海とあり。谷志けり。西
西よりあり。観念のあり。かたあり。西の方の自
夏波と見。雲のこも。西の方の自。夏の時音
と中。かたあり。志をれ。山河とあり。秋の日
乃却耳より。電輝の女とあり。冬は雪と
曉母。はるる。花より。罪障より。はるる。か
念佛。とけり。法経あり。時あり。念
う。と。かたあり。かたあり。文知あり。友あり。
妹又よ。まを。とせり。かたあり。口業とあり。

はるる。かたあり。禁戒とあり。かたあり。法あり。後あり。
かたあり。何より。かたあり。法あり。後あり。
と。かたあり。志をれ。山河とあり。秋の日
乃却耳より。電輝の女とあり。冬は雪と
曉母。はるる。花より。罪障より。はるる。か
念佛。とけり。法経あり。時あり。念
う。と。かたあり。かたあり。文知あり。友あり。
妹又よ。まを。とせり。かたあり。口業とあり。

いまた人の奴も者も貴賤のりもねし〜
うゝ恩のちりはたれとたれと〜
ゆゑ〜
やれ〜
たれ〜
人とま〜
わ〜
る牛車〜
二の用〜
〜
時〜

況やつ〜
〜
又麗業也〜
藤の衣麻〜
路也の〜
り〜
せ〜
〜
昔〜
控〜

賢賢の教へのみ法より悩む。抑又妄心の起るに
くふいせるふも時心文よ答ふ。りか。き。侍。中
舌根をやらして。不請の念佛。取。反。と。して。ひ。ひ。ひ
時。又。建。曆。の。二。を。誦。生。乃。晦。日。比。桑。門。遠。流。不。出
卷。より。これ。と。考。ふ。に

月影の入山の宿し門らかりに
あしぬ日かりははるるうらな

